	令	和6年度 学校経営計	画・学校評価 □4月4	□10月3日提出 □	3月 <sup>-</sup>	14日提出		学校番号 30		須	頁崎総合 高等	学校 課程	全
	高知 の教 の基 理念	(2)郷土への愛着と誇りを持ち、 未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互い	大います。   日本   一次   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日			学校関係者評価  【学力の向上】 評価 【 B 】 「ほとんど学習しない生徒数」の減少は評価でき、家庭学習の時間を増やすための先生方の努力の成果と考える。C層以上の割合の増加も目標に向かい頑張って欲しい。Can-Doリストで読書週間と授業準備の項目が低く、分かる楽しさが感じられず、意欲の向上に繋がっていないのでは。工業科・普通科を分けた細かい目標設定が学力向上に繋がることを期待する。平均値よりも上を伸ばすこと、下をあげることに注力すべき。学力の向上より学習意欲の向上が重要では。  【社会性の育成】評価 【 A 】 ・地域でのボランティア活動の割合が50%近くあるのは素晴らしい。須崎市内での須総生の活躍を見聞きする。学習成果発表会は、地域などを巻き込んで、一生懸命に取り組んでおり、素晴らしい。プレゼン資料や発表の工夫や練習がしっかりされており、生きる力に繋がると感じた。部活動・総合学習が良くできている。ボランティア活動に参加できていない生徒もいるのでは。  【チーム学校】 評価 【 B 】 ・学校評価アンケートにおいて、「そう思う」と回答した教職員が生徒・保護者等より少ない傾向であり、一丸となって取り組む余地はまだあるのではないか。進学率・就職率に頼らない魅力化。3年間通うと身につくこと(資格や体験)。報連相ではなく確連相。チーム学校としての取組は成果が難しいと思うが、目標は達成できていると思う。							
	スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(人) 〇将来、地域社会の発展に貢献し、〇部活動や生徒会活動等に対して〇普通科: 学習活動に主体的に取〇工業科:ものづくりに興味があり、【グラデュエーション・ポリシー〇授業を大切にし、意欲を持って学〇目標や志の実現に向けた進路選〇自己指導能力を身に付け努力す〇自己の成長や地域への貢献に対											
			(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分										
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】		中間評価【C】		中間評価後の取組内	容【P·D】		年度末評価【C】	見直しのポ	イント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識 及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける 意欲(学習習慣を含む)	○C層以上の生徒の増加 ・1・2年のC層以上の割合:70%以上 R5:1年…普通科63.0%、工業科26.6% 2年…普通科63.2%、工業科29.6% ○授業外学習時間の増加 ・ほとんど学習しない生徒数(2年生):25%未満 R5:2年第1回35.9%→第2回33.7% ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・国公立大学志願者数・合格者数を卒業者 数の10%以上。R5:6名(4.9%) ・公務員を含む就職率100%	・朝の学習、長期休業中・授業の中でワンウィークトライアルの活用、クロムブックの積極的な活用 ・授業での「めあて、思考・判断・表現の育成、振り返り」の実践を意識し、生徒のアンケート結果で確認・「すらら」の活用・その他学習環境の整備(自習室等)	В	・C層以上の割合…1年:34.3%、2年: ・ほとんど学習しない生徒数…1年① 34.5% ・朝学習での英数国の小テストの実施 ・9「学習のねらい」肯定的回答:①1年 95.6%、3年90.7%(全学年で県平均を ・10「知識をもとに自ら考え、…」肯定 92.3%、2年93.0%、3年89.7%(全学年で バー) ・基礎力診断テスト(11月)に向けて、長	:23.8%、2年①: 重 =96.9%、2年 オーバー) 的回答:①1年 で県平均をオー	・朝の学習、長期休業中中でワンウィークトライア 用、クロムブックの積極的・授業での「めあて、思考現の育成、振り返り」の写・「すらら」等のICTの活り・その他学習環境の整備等)	ルの活 内な活用 考・判断・表 実践・確認 用	増善る。 ・海 ・海 ・	C層以上の割合…1年:55.9%、2年:46.6%と 創加したが、目標には未到達 資通科・工業科を分けた目標設定が必要で る。 ほとんど学習しない生徒数…1年①:18.2% ほご:24.0%と減少し、目標を達成した。 )将来のための勉強をしている生徒の増加 国公立大学合格者数4名 R5:6名(4.9%) 公務員を含む就職率96%(未定2名)	・工業科・普通科を 目標設定を行い、 る。 ・	数値目標とす 、国公立大学 チの再検討を 構座等の活性化 り進学に対す
	社会性の育成	★多様性・包摂性 ○キャリアデザインカ(やりぬくカ) ○他者への思いやり(地域・社会 貢献、ボランティア活動等も含む)	○ボランティア活動の推奨による自己効力感や自己有用感の育成 ・地域貢献やボランティア活動に参加:50%以上学校評価アンケート肯定的回答 R5生徒:41.9%・「海のまちプロジェクト」須崎市との連携、地域協働活動推進委員との展開 R5:防災ベンチ・バス停の製作	・普通科 総合的な探究の時間において、 須崎市の「海のまちプロジェクト」に参加して いる。地域貢献や地域理解を目指す ・工業科 課題研究等において、須崎市との 連携を図る	lΒ	・普通科:「須総マルシェ」の限月) ・工業科:金刀比羅神社修復・21「地域貢献活動やボランラ・・・」の肯定的回答は、①1年253.1%、3年52.6%(2・3年は半続いる)	(9月) -イア活動 7.7%、2年	・普通科 総合的な探究 おいて、須崎市の「海の ジェクト」に参加し、地域 域理解を目指す ・工業科 課題研究等に 須崎市との連携を図る	まちプロ 貢献や地	肯・音・音・ない。 A・語・注	ボランティア活動…1年:43.9%、2年:48.8% 育定的な回答となった。 普通科:「須総マルシェ」の定期開催 工業科:金刀比羅神社修復やものづくり教 さどの実施 商業コースの賀茂神社イベント開催 海のまち音楽祭の開催 探究や実習もボランティア活動を含む場合 り、アンケート前の周知も必要。	・地域連携についてにい い取組が継続できてい ・進路に繋げる取組に 分の言葉で取組につ やアビールができる。	ている。 組にする。(自 こついての表現
		【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画 に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「海のまちプロジェクト」須崎市との連携により、普通科の総合的な探究の時間や工業科の課題研究等において地域協働学習を推進・19「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答60%を目標(R5生徒:34.9%)・学校評価アンケート「地域貢献やボランティア活動等、積極的に参加していますか」の保護者等の肯定的回答90%を目標(R5:86.7%)・教員研修の活性化 研修参加 工業科1名1回以上	・自治体や地域と連携した防災活動の展開を とおして、頼られる学校・生徒の育成=ボラン ティアポイントの紹介と活動へのいざない ・須崎市との「海のまちプロジェクト」地域交流 活動、地域協働活動推進委員との展開 ・地域企業や大学との連携の充実を図り、一層 の指導力向上を図る	А	・人権教育研究指定校事業として 点で須崎中との生徒交流会を実 ・須崎中と合同で、避難所運営に 研修を実施(8/6) ・普通科:「須総マルシェ」の開催 ・工業科:金刀比羅神社修復(9月 ・総合的な探究の時間における、 による指導・助言 ・工業教員研修5割以上参加	施(7/24) E関する教員 (7・8・10月)	展開をとおして、頼られる学校・生徒の育成=ボランティアポイントの紹介と活動へのいざない ・須崎市との「海のまちプロジェクト」地域交流活動、地域協働活動推進委員		努で・1 ・1 を 6 ・ ・ 活等	普通科・工業科とも、多くの取組で地域連携 らかた。中学生との連携も、中学校へ行き実施 さた。 19「地域や社会をよくするために何をすべきが まることがある」の肯定的回答60%を目標 生徒:65.6%) 学校評価アンケート「地域貢献やボランティア 活動等、積極的に参加していますか」の保護者 に行き的回答90%を目標(R6:86.5%) 工業科教員研修については概ね達成	R ・概ね良い結果 ラッシュアップし ぞれの事業を組	ながら、それ
		数 【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 の各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○「総合的な探究の時間」での課題発見や解決に 結びつけている成果物を学校として共有する。学習 成果発表会において発表・評価を受ける。 ○課題研究やものづくりについて、計画的に取り組 むことで学習成果発表会での発表・評価を受ける。	・計画の中で中間発表や学習成果発表会において、成果の確認・報告ができる ・外部の評価を受けることで、修正・変更を確認する	В	・社会的自立・社会参画に向けた 究(令和5・6年度研究指定校)に 公共の授業で家庭科との連携を (R5:家庭総合で、地歴公民の教 ついて講義・説明) ・教員対象の消費者教育の研修	:おいて、2年 実施 員が「契約」に	・計画の中で中間発表や学習成 果発表会において、成果の確認・ 報告ができる ・外部の評価を受けることで、修 正・変更を確認する		B <sup>会</sup> 地	月7日市民文化会館で学習成果発表 ☆での発表・評価を実施。 近隣中学校 也域、企業等に多数参加頂いた。 アン ケートでは概ね好評な評価を得た。	・取組で得た課 やや言語能力(表 かした進路実現 徒の増加。	現力)等を活
		取組のねらい【P】 現状と目標(評価指標)		具体的な取組内容【D】 中間評価		中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D		容【P·D】	】 年度末評価【C】		見直しのポ	イント【A】
チーム学校	:	★学校の魅力化 ○教育内容の充実(普通科・工業 技力)を図るとともに、連携を強化し 相互に学び合う姿勢を育成	○ 選字・就職に向けた補習は予定通り実施でき、字校 運営協議会を2回開催予定。 ・学校生活は充実している (目標90%以上 R5:88.4%) ・部活動の活性化 (加入率85%以上 R5:86.9%) ・学校運営協議会の活性化 ・自治体・大学との連携(目標15回以上 R5:12回)	<ul><li>・進学・就職補習の実施</li><li>・資格取得に向けた補習の実施</li><li>・学校行事等の地域への発信</li><li>・学校運営協議会の実施</li><li>・部活動の継続・維持</li></ul>	В	・進学・就職補習や資格取得補習を記 ・「学校生活は、充実」肯定的回答:① 93.8%、3年94.9%(全学年で県平均を ・第1回学校運営協議会は、7月3日間 ・部活動の加入率:71.9% ・全国大会へカヌー部が出場し、7位 ・学校行事 文化祭(10/4・5)通常開係	)1年97.0%、2年 オーバー) 引催 ・8位入賞	<ul><li>・進学・就職補習の実施</li><li>・資格取得に向けた補習の実施</li><li>・学校行事等の地域への発信</li><li>・学校運営協議会の実施</li><li>・部活動の継続・維持</li></ul>		B ·第··第··第··第··第·第	就職希望者は100%内定。 国公立大学合格者4名(2月21日現在) 学校生活は充実している (目標90%以上 R6:93.5%) 第2回学校運営協議会の実施(2月21日予定) /フトボール部・カヌー部全国大会出場 囲碁将棋部全国大会:英語ディベート全国大会 無終文祭入賞(囲碁将棋部、写真部、美術部、書道 5) 全国総文出場(書道部、囲碁将棋部)	・進路保障の向・部活動の活性・入学者の確保・中学校との連打・再編検討	化(精選·PR)
		本 <b>教職員の倫理観の堅持</b> ○ 不祥事防止対策の徹底 ○ よりよい職場風土づくり ○ 教職員のメンタルへルス ○ 不祥事発生時の適切な対応	<ul><li>○現状課題</li><li>不祥事防止委員会の設置、校内研修の実施</li><li>○校内研修の実施回数(年3回)</li><li>○不祥事防止委員会の実施回数 (不祥事防止月間 6月を予定)</li></ul>	・組織職員会での研修会の実施 ・相談窓口等の周知・徹底 ・校内研修の予定開催の徹底 ・教員間の関係づくりの検討	В	・不祥事防止研修を、4/1、4/24、 し、今後も、10月と1月に実施予定 ・6月を不祥事防止月間とし、当初 「風通しの良い職場づくり」につい 聴取 ・教育実習オリエンテーションでの	・相談窓口等の周知・徹底 ・校内研修の予定開催の徹底 ・教員間の関係づくりの検討		A ・最 確 ・ オ	不祥事防止研修として「信頼される学校づくり」とめに」の定期購読及び確認 研修の年間3回以上は達成(5回実施) 最終面談のなかで、個々の不祥事への意識( 記の第2回不祥事防止月間) 不祥事防止委員会の定期(月一回)の開催 確認や相談の定着	<ul><li>研修や声掛けの</li><li>・個々の亦化を目</li></ul>	逃さない環境	
		★長時間勤務の解消 ○ICTの活用	○分掌業務の複数での取組はでき始めているが、部活動業務の分担に偏りが見られる。 ・45時間超勤務者を月平均5人以内 ・ベテラン教員から若年教員への業務指導及び協働 ・組織的な協力体制の構築、ICTの活用	教材の共有化や採点業務の見直し	С	た。理由は、ホーム担任業務、分	月)7人であっ 掌業務、教科	であつ ・各学年やホーム担任・副担任での役割分		B 人任ほが繁	45時間超勤務者は、(10月)10人、(11月)8、、(12月)、3人(1月)5人であった。ホーム持任業務、分掌業務、教科指導、部活動指導はか、行事準備や進路指導等多岐にわたるが、大きい行事や年度の始めと終わりなどの修忙期には増える傾向は変わらない。職員時上の省略は、負担軽減に繋がった。	* 女 時 间 勤 務 名 へ 事 の スリム 化 を 継 終 ( スクラップ & ビ ル ・ 時 問 等 理 だ け で	の声掛けや仕 続する。 ドの促進) はなく、教職員